

令和5年6月28日発行



こうじえん

## 普及センターだより

# 耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL：0193-64-2220

FAX：0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL：0194-22-3115

FAX：0194-22-2806

いわてアグリベンチャーネット

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

第184号

### 起業者を対象に「食品表示研修会」を開催

普及センターでは、6月14日に「食品表示法」の改正内容や表示内容の見直し、確認を行う機会として、標記研修会を開催しました。宮古管内では、「ひゅうず」などで「くるみ」がよく使用されていますが、令和5年4月から「くるみ」がアレルギー表示のルール改正で、推奨表示（特定原材料に準ずるもの）から義務表示（特定原材料）になったことから、その内容を中心に研修しました。

当日は宮古保健所の懸田環境衛生課長から「食品表示法の概要と食品表示の作成方法」、大河内技師から「採取業の範囲」について説明いただいた後、参加者と質疑応答を行いました。

研修会には起業者30名が参加しましたが、アンケートには、「食品表示について、再度復習、確認ができて大変良かった」「販売する事の責任の重大さを感じた」「少し難しかった。ラベル作成した際に、ご相談したい」などの意見が寄せられました。

【担当：佐藤】



### パート希望者等を対象とした農作業体験会を開催

野菜産地の維持・拡大のためには労働力の確保が大きな課題です。そこで、農業現場でのパート就労に関心のある方を対象とした農作業体験会を開催しました。

30代～70代と幅広い年齢層の18名が参加し、ブロッコリーの収穫体験やピーマンほ場の見学を行いました。参加者からは「農業に関しての求人を探していて、参加できてよかった」という感想がある一方で、「スピード感が必要と感じた」「体力に自信がないので、不安」という声もありました。

本体験会は、申込み開始から2日間で定員が埋まり、農業現場で働くことに興味ある人が多くいると感じました。今回の体験会が労働力不足解決のきっかけとなるよう今後も取組みます。

【担当：小原】



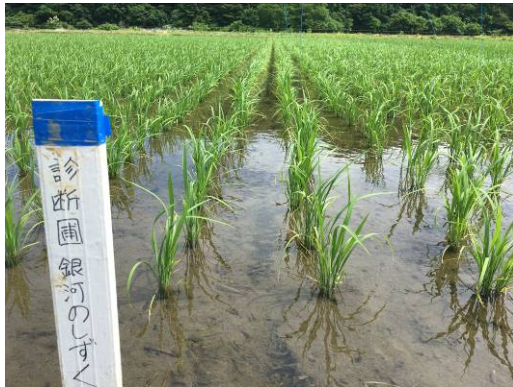
# 管内における水稻の生育状況と栽培管理のポイント(7月)

## 1 管内の生育状況

生育診断圃における6月15日時点の生育は、6月上旬の平均気温が高く推移したことで、草丈、茎数、葉数が平年を上回っています。

表 令和5年度水稻生育状況(6/15調査、山田町荒川)

品種名	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉数 (枚)		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
あきたこまち	33.3	28.3	+5.0	328	315	104%	7.5	6.8	+0.7
銀河のしずく	37.2	33.2	+4.0	360	327	110%	7.4	6.6	+0.8



生育診断圃の生育状況(6/15時点、左:銀河のしずく、右:あきたこまち)

## 2 今後の栽培管理

- (1) 葉色を確認し、色がさめたら幼穂形成期(7月中旬)に追肥を実施しましょう(窒素成分で2kg/10a以内)
  - (2) 穂いもち予防粒剤は7月中旬頃に散布しましょう
  - (3) カメムシ類の発生源となる畦畔雑草は水稻の出穂10日前までに刈取りましょう
- 【担当:小野】

## 熱中症対策アイテムで猛暑を乗り切ろう!

岩手の7月は梅雨真っ最中で、ジメジメと蒸し暑い天気が続くと思われまます。暑さはまだまだ続くので、熱中症対策を実施して農作業事故の危険を減らしていきましょう。対策のポイントは、(1)高温時の作業は極力避ける(特に外やハウス内作業) (2)こまめな休憩と水分補給 (3)複数名で作業する (4)熱中症対策アイテムの活用です。

今回は、熱中症対策アイテムについて特集した農林水産省のHPをご紹介します。身体を冷やす装備や、万が一熱中症になった時の応急措置グッズ等が載っています。

右記のQRコードからご覧ください。

毎年、農作業中の熱中症により約30人が亡くなっており、農作業における死亡事故全体の約1割を占めています。熱中症対策グッズを活用して、夏作業を快適に行いましょう。



熱中症対策アイテムの紹介(農林水産省)

## 編集後記

令和5年度耕耳宛7月号をお読みくださり、ありがとうございます。

東北地方も梅雨入りし、曇りや雨の日が多くなっています。薬剤散布のタイミングが遅れると病虫害が蔓延しやすくなりますので、天気を確認して適期防除に努めましょう。  
(千田)